

第分科会4 ドロップトーク(コミュニケーションアプリの紹介と体験)

講師 HMDT 株式会社 木下誠



最初にドロップトークの説明があり、実際にタブレット iPad を使ってアプリの使用体験を行った。

「DropTalk」(ドロップトーク)とはどんなアプリか。

「Drops」と呼ばれる絵カードのセットから派生した、コミュニケーションを補助するためのアプリ。Drops の絵は「シンボル」と呼ばれ、タップすると音声を再生する。2009 年ドロップレット・プロジェクトが開発した視覚支援シンボル集。シンボルの絵があるので使いやすい。シンボルは「キャンバス」と呼ばれる画面の上に並べて使用する。

(1)コミュニケーションキャンバス(発声機能がある)について

まず新規キャンバスを開く。いくつかのテンプレートがある。編集し表示する。タップすると読み上げるので、使い方を工夫すればコミュニケーションをすることができる。

朝の会のカリキュラムの作成体験を行った。イラストがあるので簡単に操作、編集ができ、特に読み上げ機能があることで、学校現場で子どもたちが興味を持って取り組むことができると感じた。声が出ない子が、朝の会の司会進行ができる等の利用法の紹介があった。

(2)スケジュールキャンバスについて

スケジュールを管理できるキャンバス。終了した項目にチェックを付けたり、時刻の設定をしたり、タイマーを作動させたりすることができる。朝起きてからの動きの流れのスケジュール作成体験を行った。流れの視覚化ができる。また目標時間にセットし、あとどれくらいでタイマーが鳴るか、見ながら取り組むことができる。

(3)スケッチキャンバスについて

自由に絵を描くことができる。音声を再生するシンボルも自由に配置することができる。

部屋の事物を写真撮影し、事物(机、ペン等)に音声ボタンをセットした。タップして読み上げる機能の体験を行った。

また、視線入力、Windows 版のデモンストレーションがあった。

本アプリは有料アプリである。現場の先生方の意見を取り入れて反映していると。

問い合わせがあればどうぞとのことでした。

このアプリを使えば、自作の教材作成ができ、写真やイラストがあるので子どもたちも取り組みやすい。例えば、行事の説明や、生徒自身がプレゼンを行うなどこの場面で使えるのではないかとイメージが広がった。教育現場でタブレット、アプリ等の ICT 機器が導入され推進されたらと思う。